

第 1 1 期府中市生涯学習審議会・答申骨子案

2024 年 9 月 10 日

答申の構成と 8 月審議会の討議内容について

今回の答申は今期（令和 5 年度～6 年度）全体としての答申となるため、本年 1 月に作った「中間答申」の内容も含めたものとなります。この最終的な文案は 11 月の審議会で討議するので、本日（9 月 10 日）の審議会では、本年になってから話し合った内容をもとに、「中間答申」後半部分の項目（3. 府中市の生涯学習が抱える課題、4. これからの府中市における「生涯学習の拠点」の役割、5. これからの府中市における「生涯学習の拠点」の機能）に沿って、書き入れる内容を話し合いたいと思います。（中間答申の文面は添付の資料をご参照ください）

A. 「府中市の生涯学習が抱える課題」に書き加えること

A-1 地域の学習拠点としての文化センター（公民館）に関する課題

- ① 近年、学習活動に集う住民の高齢化が著しく、且つ既存の学習グループに新しく参加する学習者があまり多くないことから、活動の場が縮小している。
- ② 文化センター主催の講座や活動は、より若い世代に訴求する魅力的な企画が少なく、地域の多様な人たちが学びに集う場となっていない。

A-2 多様な施設等との連携に関する課題

- ① 生涯学習における「学び」には、講師からの一方通行型の講義を聞く形だけでなく、「集団での学び(あい)」、「言葉以外による学び」、「教室外での学び」、「双方向の学び」、「正解のない学び」といった多様な形態があるが、現在の生涯学習センターはそうした多様な学びへの支援がうまくできていない。
- ② 多様な学びのコミュニティ作りを促進するためには、府中市内にある多様な学びのリソースを掘り起こし、学びたい人たちと繋げ、活用を進めることが求められる。この「リソース」には、市のさまざまな学習関連施設（学校、図書館、博物館、美術館、劇場、市民活動センター、男女共同参画センター等）に加え、学習に活かせる多様な人材や組織も含まれる。

A-3 主体的学習者へのサポートに関する課題

- ① 「学びたい」「学び返しをしたい」と思う市民が気軽に相談できる場所が生涯学習センターには不足している。
- ② 市民による自主的な学習活動の取り組みがあまり重視されていない。学びたいと思う市民に寄り添い、グループ化の促進や学習リソースの紹介といった支援が必要である。

B.「生涯学習の拠点の役割」に書き加えること

B-1 文化センター（公民館）との連携に関する生涯学習センターの役割

- ① より多様なニーズに対応している生涯学習センターによる、文化センターへの出張講座やオンライン講座を開催し、地域の学びのコミュニティの活性化に繋げる。
- ② 各文化センターを拠点として行われている、市民による特色ある学習活動を、生涯学習センターが把握し、市民各層、各地域に積極的に広報するとともに、必要に応じて支援する。
- ③ 地域コミュニティが抱える課題の掘り起こしや課題解決に向けての（文化センターでの）学習活動の促進に、生涯学習センターや生涯学習ファシリテーター等が協力する。

B-2 生涯学習センターと他施設との連携における役割

- ① 市民による自主的な活動を支援する施設として市民活動センター（プラッツ）があり、生涯学習センターで学んだ市民が何らかの活動をしたい時にはプラッツの支援が受けられる、プラッツで活動しているグループが学習を深めたい時に生涯学習センターにつなげる、というような連携が求められる。
- ② 府中市の未来を担う子どもたちや若者が、地域への理解や愛着を深めることができるよう、世代を越えた学びのコミュニティの創出に向けて、府中市の多様な学びの「リソース」を掘り起こし、小中学校や郷土の森博物館等と繋げていく。

B-3 主体的に学習したい市民への支援の役割

- ① 生涯学習について市民がもっと気軽に相談できる場所や受付体制を充実する。体制拡充には、バーチャル空間での対応や人工知能（AI）の活用も積極的に取り入れる。
- ② 府中市にはどんな人材や組織があり、どのような「学びあい」「学び返し」が可能なのか、各文化センターやプラッツ等との連携も含めて、情報収集・分析・共有機能を強化する。
- ③ 「学び返し」の促進者としての生涯学習ファシリテーターやボランティアの活躍の場を作る。府中市全体の生涯学習の状況を把握しながら、生涯学習ファシリテーターの活かし方を考える。

C.「生涯学習の拠点の機能」に書き加えること

本年の議論を踏まえ、かつ生涯学習センターの将来的な移転・施設再配置の計画を考慮すると、生涯学習センターとして今後強化すべき機能は、自らが講座を提供するプロバイダーとしての機能よりも、市全体の「多様な学びのコミュニティ」を促進するための、「ハブ機能」「コンシェルジュ機能」の2つであると考えられる。

C-1 多様な学びを促進するハブ機能

- ① 「ハブ」はもともと「車輪の中心」を表す言葉だが、「ネットワークの結節点」という意味を持つようになった。
- ② 生涯学習における「ハブ機能」とは、第一に市内の多様な学習リソース（施設・組織・人材・活動）を把握、データ化し、広く発信することを通じて、地域に根ざした学びのコミュニティの活性化を支援するものである。
- ③ ハブ機能の第二として、市内の多様な学習施設（小中学校、図書館、博物館、美術館、劇場、市民活動センター、男女共同参画センター等）とのネットワークの結節点となり、多様な人々の世代を超えた学びのコミュニティ作りに繋げることが求められている。

C-2 市民主体の学びを促進するコンシェルジュ機能

- ① 「コンシェルジュ」はホテル等において宿泊客の多様な要望に対応し、総合的にお世話をする役割の人を指している。
- ② 生涯学習における「コンシェルジュ機能」とは、市民による主体的な学習ニーズに対応し、「学びたい人」「さらに学びを深めたい人」「学び返しをしたい人」の相談を受け付け、学習グループの育成も含めて、市民が主体的に学び続けられるよう支援するものである。
- ③ このコンシェルジュ機能は、生涯学習センターの職員だけでなく、生涯学習ファシリテーターやボランティアによって担われることも可能である。

C-3 生涯学習センターのハード面に関する留意点

- ① 今後の人口減少や縮小経済を考慮すると、維持管理に経費のかかる箱モノは必要最小限とし、生涯学習センターのDX（デジタルトランスフォーメーション）化が必須である。
- ② 次世代に良好な自然環境を残すために、新たに作られる施設においては、単なるCO₂削減のためだけでなく、自然との共生を図れるようなGX（グリーン・トランスフォーメーション）化が求められる。

D. 最後に付け加えたい点（「公共の役割」について）

本審議会への諮問事項は、これからの生涯学習を支える「公共」の役割、であった。本答申では「これからの社会環境」「これからの生涯学習」を前提として、主に今後の施設再配置が予定される生涯学習センターの役割と機能について審議し、上述のような結論を出してきた。では、生涯学習を支える「公共の役割」とは何だろうか。それを考えるにあたって重要なのは、生涯学習の持続可能性である。本市が標榜する「学び返し」を含め、多様な市民による主体的な学習活動が「学びのコミュニティ」となって展開されていくことが持続可能性の鍵となる。府中市はこの理念のもと、市民の参加を得て長期的な視野を持って調査・分析を行い、計画的かつ総合的に生涯学習事業をファシリテートしていく必要がある。

以上